教師間の対話を重ねるとともに、生徒・保護者の声も取り入れながら、育成を目指す資質・能力を明確化

群馬県立桐生（きりゅう）高校

◎校訓は、「独立自尊」「文武両道」。2007年度、文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定を受け、現在3期目。17年度から全校で探究学習をスタート。21年度、群馬県立桐生女子高校と統合予定。
◎設立　1917（大正6）年
◎形態　全日制／普通科（男子のみ）、理数科（男女）／共学
◎生徒数　1学年約240人
◎2020年度入試合格実績（現役のみ）　国公立大は、北海道大、筑波大、群馬大、千葉大、一橋大、大阪大、神戸大、高崎経済大などに108人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ546人が合格。
◎URL　http://www.nc.kiryu-hs.gsn.ed.jp/

探究学習の拡大・改善から学校全体の教育活動の整備へ

地域の進学校である群馬県立桐生（きりゅう）高校は、2020年3月、生徒への育成を目指す資質・能力と、それらを育成する教育活動を可視化した「グランドデザイン2020（案）」を策定した（**図1**）。そのきっかけとなったのは、17年度、SSH（＊1）3期目の指定を受け、それまで理数科のみで行っていた探究学習を普通科にも拡大したことだった。森泉孝行校長は、次のように説明する。

「SSHでの実績を生かし、新学習指導要領の実施に先行して全校で資質・能力の育成を推進しようと考えました。SSHの研究開発目標として『主体性、協働性、問題解決能力、創造力の育成』を掲げ、探究学習を軸にすべての教育活動でその目標達成を目指すことにしたのです」

SSHの活動では、1・2年次に探究の手法を学ぶ科目「探究基礎」と、チームで課題を設定して探究する科目「探究」を学校設定科目として探究学習を推進。1・2年次ともに、年度末には大学教員や他校の教師、保護者を招く発表会を実施することにした。そして、3年次に、2年

図1　桐生高校「グランドデザイン2020（案）」

＊学校資料をそのまま掲載。

＊1　文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」。

校長
森泉孝行
もりいずみ・たかゆき
教職歴37年。同校に赴任して2年目。

教務主任
七原 登
ななはら・のぼる
教職歴32年。同校に赴任して4年目。国語科。

資質・能力育成部
岸 直子
きし・なおこ
教職歴29年。同校に赴任して10年目。英語科。

2学年主任
星野 亨
ほしの・とおる
教職歴28年。同校に赴任して3年目。英語科。

3学年主任
山田精一
やまだ・せいいち
教職歴25年。同校に赴任して10年目。地理歴史科(日本史)。

1学年主任
髙島喜美夫
たかしま・きみお
教職歴24年。同校に赴任して7年目。保健体育科。

資質・能力育成部部長
北村元教
きたむら・もとのり
教職歴13年。同校に赴任して9年目。国語科。

次の探究学習のまとめとなる論文形式の報告書を執筆する。

探究学習の全校実施において重要な役割を果たしたのが、「探究基礎」で使用する学校独自の教材「学びの技法」だ。それは、「聞く力」「課題発見力」「情報収集力」「プレゼンテーション力」など、探究学習に必要と同校が定義した10項目について、独自にテキストやワークシートなどをまとめた教材で、大学生向けの探究学習の書籍を参考に教師用と生徒用の2種類を作成。教師用には、授業の進め方や時間配分などを示した指導案を加え、指導の標準化を図った。

さらに、教育目標達成のために学校全体で指導のPDCAサイクルを回せるよう、SSH担当者や各学年主任ら19人から成る「資質・能力育成部」を設置。週1回の会議で、各学年の指導状況を共有した。一例を挙げると、18年度の1年生は、1学期に「学びの技法」で理論を一通り学んだ後、2学期に地元桐生で活動する「探究」を行った。すると、理論の習得後、実践まで時間が空いたため、生徒は理論を使いこなせなかった。そこで、翌19年度の1学年団は、「学びの技法」で「聞く力」を指導した翌週に、「探究」の実践で市役所の職員に話を聞く活動を行い、両者の連動を図った。1学年主任の髙島喜美夫先生は、次のように説明する。

「19年度の1学年では、理論を学んだ直後にそれを実践できる活動を設け、生徒にも『先週、学んだよね』と声をかけて意識づけし、学習内容が定着するようにしました。前年度の課題を踏まえた改善ができることで、探究学習は年々進化しています」

そのように体制を整えて推進する中で、教師間に資質・能力の育成の意識が浸透していったが、一方でそれが探究学習の枠組みを超えられないといった課題も浮き彫りになった。

「『探究学習は特別な活動』という意識が教師に強く、資質・能力の育成は教科学習と結びつけて捉えにくい状況でした。そこで、探究学習だけでなく、教科学習や学校行事など、どの教育活動でどの資質・能力を伸ばすのか、本校の教育活動全体を俯瞰するグランドデザインが必要だと考えました」(森泉校長)

生徒の意見も聞きながら、育みたい資質・能力への理解を深化

19年1月、19年度中のグランドデザインの策定を目指し、同校は動き出した。まず、資質・能力育成部で

図2 グランドデザイン策定のステップ

2017年4月 **探究学習を全校に拡大**
共通の教材を作成し、指導を標準化

資質・能力の育成を、教科学習や学校行事などでも意識していくために、グランドデザインが必要では?

2019年1月 **資質・能力育成部で研修 ❶**
他校のグランドデザインの策定過程等を把握

2月 **全教師による校内研修 ❷**
自校の現状を分析し、育てたい生徒像を共有。教師のマインドセットを図る

4月 **生徒会役員と資質・能力について検討 ❸**
卒業までに身につけたい資質・能力を話し合う

5月 **職員会議後に校内研修 ❹**
文化祭で育成したい資質・能力を検討

9月 **保護者(PTA役員)にアンケートを実施 ❺**
子どもに身につけてほしい資質・能力を調査

教師・生徒・保護者から挙がった資質・能力を一覧化

2019年11月 **全教師による校内研修 ❻**
一覧化した資質・能力を3観点で整理・精選

2020年2月 **全教師による校内研修 ❼**
教科ごとに重視する資質・能力を設定

3月 **グランドデザイン案を策定**

校内研修は、VIEW21編集部が企画や運営を数回サポート。

＊学校資料、及び取材を基に編集部で作成。

＊本記事の取材は、2020年3月に実施しました。プロフィールは、取材時点のものです。

研修を実施（P.23図2❶）。他校のグランドデザイン策定に関する情報等を参考に、自校の学校経営計画やSSHで掲げる育成を目指す資質・能力を踏まえて、各教師が生徒に育みたい資質・能力とそう考えた理由や思いを語り合った。加えて2月には、全教師参加の研修を実施（図2❷）。数人ずつのグループに分かれて、自校の強み・弱みや自校を取り巻く環境について語り合い、それらを踏まえて自校で育てたい生徒像を考えた。その2つの研修によって、グランドデザインへの理解を深めつつ、教師のマインドセットを図った。

新年度を迎えた4月には、生徒会役員と生徒会担当の教師が、「高校卒業までに身につけたい資質・能力」をテーマに話し合った（図2❸）。生徒からは、「企画力」「思いやり」「ユーモア力」など、教師とは異なる視点からの資質・能力が挙げられた。

5月には、異動してきた教師とグランドデザイン策定の過程を共有するため、改めて全教師参加の研修を実施（図2❹）。翌月に控えた文化祭で育成したい資質・能力について話し合い、文化祭後には、生徒が身につけたと思う資質・能力をアンケートに記入し、校内の共有フォルダで集約した。教師からは、「生徒は、準備を計画的に行えていない。文化祭の目的を深く考えていないからだろう。グランドデザインで文化祭の目的を意識できれば、成長が期待できるのではないか」といった意見が寄せられた。資質・能力育成部の岸直子先生は、次のように語る。

「先生方の意見から、研修が文化祭の意義や目的を改めて認識する機会になったことが分かりました。文化祭前は職員会議後の30分間の研修、文化祭後はアンケートの記入のみでしたが、実施した意味がありました」

資質・能力育成部部長の北村元教（もとのり）先生は、自身も変化したと語る。

「文化祭当日には雨が降り、屋外で行う予定だった仮装行列をそのまま実施するかどうかの対応に迫られました。校長、生徒会役員、係担当の生徒と私とで話し合った結果、生徒が校舎内を練り歩くと自ら決断しました。教師は助言をしましたが、生徒自身が決めたという経験は大きいですし、資質・能力の育成を意識していたからこそ、私たちは生徒に判断を任せることができました」

3観点で資質・能力を整理 各教科の重点項目も挙げる

保護者にも意見を聞くため、9月のPTA役員会では、グランドデザイン策定の目的や進捗状況を説明し、我が子に高校卒業までに身につけてほしい資質・能力についてのアンケートを実施した（図2❺）。すると、「プレゼンテーション能力。仕事では人前で発表する機会が多い。自分の経験から、若い時に身につけておけばよかったと思う資質・能力の1つ」「柔軟性。物事を柔軟

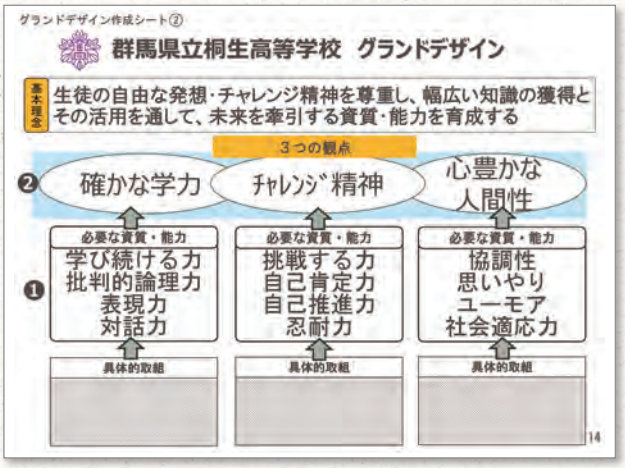
図3　2019年11月時点の「育成したい資質・能力」

育成したい資質・能力		資質・能力育成部	教職員研修	生徒会	保護者(PTA役員)
知識・技能					
思考力・判断力・表現力等	思考力（論理的思考力）	○	○	○	○
	俯瞰力				○
	発想力				○
	質問力		○	○	○
	判断力	○	○	○	
	交渉力	○	○	○	○
	企画力			○	○
	情報収集力		○	○	
	表現力（執筆力・プレゼン力）		○	○	○
学びに向かう力・人間性等	協働力	○	○	○	○
	柔軟力		○	○	○
	忍耐力		○	○	○
	アドリブ対応力		○	○	○
	自己推進力	○	○		○
	チャレンジ精神		○	○	
	好奇心				○
	思いやり			○	○
	学び続ける力	○	○		○
	自己肯定感	○	○		○
	挑戦する力	○	○		
	行動力		○	○	○
	ユーモア力		○	○	
	決断力				○
	社会適応能力		○		○

教師・生徒・保護者が挙げた資質・能力のうち、より多かったものを一覧化した。

＊学校資料を基に編集部で作成。

図4　グランドデザインの柱となる3つの観点の検討



＊学校資料をそのまま掲載。

に考えられれば、行動力や表現力など、ほかの資質・能力の向上にもつながるのではないか」など、生涯にわたって必要な資質・能力という視点で回答した保護者が多かった。それには、学校からの情報発信や保護者のニーズの変化などが影響していると、教務主任の七原（ななはら）登先生は語る。

「各学年とも、学年通信等を通じて、社会で求められる資質・能力や新学習指導要領について発信してきました。保護者はそれらをしっかりと受け止め、資質・能力の育成の必要性に共感してくれたのでしょう」

そして、収集した教師・生徒・保護者の意見をまとめ、グランドデザインとして形にする工程に入った。11月の全教師参加の研修（図2⑥）では、教師・生徒・保護者から多く挙げられた資質・能力（図3）を「資質・能力の3つの柱」で分類。それを基にグランドデザインの柱となる観点を決めるため、8つのグループに分かれ、各メンバーの案を共有した上でグループの案を作成した。

それらの案を、20年2月の全教師参加の研修（図2⑦）で共有し、グランドデザインの観点案を検討した。その結果、自校の教育理念に最も合っていると多くの教師が納得したグループ案（図4）を基に、「確かな学力」「チャレンジ精神」「豊かな人間性」の3つを観点に決定。そして、教科ごとのグループに分かれて、その3つの観点で資質・能力を分類し、それらを育成するための各教科の具体的な取り組みを検討した。

資質・能力育成部では、2回の研修の結果を踏まえて育成を目指す資質・能力を、⓪確かな学力～⑭社会適応能力に集約。その中から担当教科で育成を重視する資質・能力を各教科主任に挙げてもらった（図5）。

図5　各教育活動で育成を重視する資質・能力

育成したい資質・能力		国語	地歴・公民	理科	数学	英語	体育・芸術	探究	部活動	行事
知識・技能	⓪確かな学力	○	○	○	○	○				
思考力・判断力・表現力等	①思考力（論理的思考力）	○	○	○	○	○	○	○		○
	②発想力				○	○	○	○		○
	③質問力	○		○				○		○
	④判断力				○		○	○	○	○
	⑤交渉力		○			○		○	○	○
	⑥表現力（執筆力・プレゼン力）	○	○	○	○	○		○	○	○
学びに向かう力・人間性等	⑦協働力	○	○		○	○	○	○	○	○
	⑧忍耐力	○	○		○	○	○	○	○	○
	⑨アドリブ対応力							○	○	
	⑩思いやり	○		○		○	○	○	○	
	⑪学び続ける力				○	○		○	○	
	⑫行動力	○	○	○				○	○	○
	⑬ユーモア力									○
	⑭社会適応能力		○			○		○	○	○

＊学校資料を基に編集部で作成。

校内外への周知と具体的な活動への落とし込みを強化

そうしてたどり着いたのがグランドデザイン案（P.22図1）だ。3学年主任の山田精一先生は、それまでの検討過程を次のように振り返る。

「3年間、全校で探究学習を推進してきた結果、私たち教師の主体性や協働性などが磨かれていったのでしょう。だからこそ、一枚岩で議論ができ、教師のボトムアップでグランドデザインを策定できました」

20年度は早々にグランドデザインを完成させ、校内外に発信するとともに、教育目標として設定する資質・能力を育成するための取り組みを教育活動ごとに具体的に提示し、それを実践する予定だ（写真）。2学年主任の星野亨（とおる）先生は、次のように語る。

「教師が15の資質・能力を意識し、その育成につながる指導に落とし込むことが重要です。例えば、『探究』の学年末の発表会では、大学教員から厳しい指摘を受け、泣き出す生徒もいますが、その挫折も含めて『探究』なのです。生徒が自分の資質・能力をメタ認知し、自身の成長に向けて踏み出せるよう、教師がどう働きかけるかが重要です。そうした指導を学校全体でできるよう、指導のあり方を共有していきたいと考えています」

教師同士で何度も語り合い、生徒や保護者の声を丁寧に聞いてきたことは、21年度に控える群馬県立桐生女子高校との統合にも生きていくだろうと、森泉校長は語る。

「探究学習の指導とグランドデザインの検討を通じて、統合後の新しい高校のグランドデザインの土台ができました。資質・能力の育成を目指した指導の重要性を理解した教師は、新しい高校の力強い推進力になると期待しています」

写真　資質・能力を育成するための各教科や学校行事などでの具体的な取り組みを、職員室の掲示板で共有した。